

## 会 議 録

会議名称	令和7年度第2回地域生活支援専門部会
日 時	令和7年（2025年）12月18日（木）10:30～11:30
会 場	越谷市役所第三庁舎5階 会議室11
出席者	<p>【出席委員】 齊間委員、中山委員、石塚委員、柳沼委員、村上委員、石黒委員、上薄委員</p> <p>【事務局】 （障害福祉課）齊藤調整幹、近藤調整幹、佐藤副課長、藤本主幹、河合主幹、 対馬主幹、石井主事 （子ども福祉課）岩片主任</p>
配付資料等	<p>【配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次 第</li> <li>・資料1：基幹相談支援センター稼働状況の検証の根拠について</li> <li>・資料2：越谷市障がい者等相談支援事業 事業実施状況確認表</li> <li>・資料3：検証実施状況確認の実施方法について（委員用）</li> <li>・資料4：検討事項について</li> <li>・地域生活支援専門部会 部会員名簿</li> <li>・事務局職員等一覧</li> </ul>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議事 (1)基幹・拠点の評価の仕組みの整備について (2)その他</li> <li>3 閉会</li> </ol>
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基幹・拠点の評価の仕組みの整備について                 <ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局から配布資料について以下のとおり説明を行う。</li> </ul> </li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1については、前回もお示しした基幹の評価に係る実施目的や根拠等をまとめた資料となっており、対外的に示せるように内容を整理したものとなっている。</li> <li>・資料2については1ページ目の各評価項目について、基幹、委託それぞれで評価できるように変更した。また、前回の会議終了後にご意見をいただき、各項目の自己評価に加え自由記載欄を設けることとした。</li> <li>・資料3は、実際に評価していただく委員向けに評価の実施方法や流れをまとめた資料となっている。</li> <li>・資料4については、本日議論いただきたい内容をまとめた資料となっている。</li> </ul> </li> </ol>

【質問・意見等】

委員：実施状況確認表1ページ目における各評価項目については、5段階評価が良いのでは。ただし、評価基準をしっかりと整える必要があると思う。

委員：数字の評価となると、基準がやはり難しいと思われるため、○△くらいの記載にしたほうが良いのでは。

委員：いずれにしても、基準はしっかりと定めておくべきであると思う。

委員：基幹相談支援センターにとっても自己評価しやすいものという観点から○△のほうが良いのでは。

部会長：数字による評価の良いところは前年度の比較ができるという点にあるが、やはり基準の明確化など課題もあると思われる。

副部会長：これまでの意見を踏まえて事務局に最終の判断を仰ぐ形で良いか。

委員：「①職員配置状況」についても、数字に変動があった場合に理由を記載する欄があったほうが良いのでは。

委員：緊急時支援対応件数（時間外）というのは、仕様上でいう勤務時間以外の時間を指すという認識でよいか。

部会長：基本は認識のとおりでよい。ただし、緊急時の定義として、当初から予定されている時間外、休日の対応は除くものであることは注意してもらう必要がある。

部会長：③の2の活動記録等の提出は求めるのか。

事務局：現時点では想定していない。

委員：評価様式はデータで渡すのか、紙で渡すのか。

事務局：エクセルのデータで渡す予定である。

委員：記入者を書く欄は設けないのか。

部会長：記載内容を問い合わせることも想定されるためあったほうが良いのでは。

委員：全体のスケジュールをもう少し早めたほうが良いのでは。

事務局：前回もご意見をいただき、スケジュールを早めたが、まだ早める余地はあると思うので検討させていただく。

委員：基幹相談支援センターの部分については、4地区合同で動いており、同じ内容になることが想定されるが、基幹の部分もそれぞれ評価シートを作成してもらうのか。

委員：基幹、委託の部分を内部で業務を分けているからこそ、それぞれの業務を理解する意味でも内部でしっかりと自己評価を行ってもうことが重要になるのではないか。

委員：評価をする際は各地区の検証を行ったうえで、最後に各地区の総評を検討する形が良いのでは。

委員：評価結果の通知方法について、総評とは別に各地区の良かった点、課題点をまとめたうえで全ての地区で同じ内容を通知するのが良いのではないか。

委員：結果通知の方法は、今回初めて行うためイメージがつきにくいですが、一旦対面で行って見るのが良いのでは。

委員：評価結果を対面で通知するのはかなりの労力がかかると思われるため、書面で良いのではと考える。アドバイス機能の役割については別途検討する必要があると思われる。

委員：検証様式と検証結果は公表の必要はないと考えるが、相談支援専門部会等への共有は必要になると考える。

委員：多様な意見の取入れの観点から、他機関から意見をもらう形とするのであれば、業務上の繋がりから相談支援専門部会になるのかなと考える。

委員：相談支援事業所は基幹・委託の業務がまだまだ理解できていない部分もあり、業務を理解する意味でも相談部会を活用するのは良いと思う。他分野の意見を取り入れた場合、基幹・委託の業務内容ではなく、他分野の認識のみをもとにした意見が出る懸念もあると思う。

委員：他機関の意見を取り入れる場合、もちろん多様な意見を取り入れる観点では良いと考えるが、一方で要望ばかりが意見となるような形となってしまう恐れもあることから、慎重に判断する必要があると考える。

委員：他機関の意見を取り入れる場合、基幹が依頼すると関係ができているところに意見を求めてしまい、客観的な意見がもらえない可能性が考えられるため、行政がある程度依頼先を指定する必要があるのでは。

委員：多様な意見の取入れについては、今後実際に評価等を行ったうえで必要に応じて検討したほうが良いのでは。

委員：他機関に意見を依頼する場合、基幹相談支援センターから依頼をすると、要望等が多くなり、本来の評価の趣旨から逸れてしまう可能性もあるため、本専門部会から依頼をし、自己評価と他者評価を専門部会で検証をし、基幹には最後に結果を通知する形とすべきであると考えている。

事務局：本日いただいた意見をもとに、次回の部会において最終案という形でお示しさせていただきたい。

## (2) その他

事務局：次回開催は令和8年2月頃を予定している。

## 3 閉会